

ランドセル等々、アイデアをこらした実用品がたくさん目につけた。

遠くで演奏会があつた夜は、話しかけているうちに午前一時、二時ころになると遊びすぎた高二、中一の姉弟は、夜おそくまで課題の学習をやっていた。おぞいて見ると、科学と数学をやつていたが、さすがにドイツは、かなり高い水準であると思われた。

◇ 親日的なドイツ
フランクフルトのいなか町ではあるが夢のように美しいニーダエルレンバッハでは、前回の訪米のときに劣らない温かいもてなしを受けた。六月十八日、町の公園で催された日独大交歓

車をしばしば見かけ、びっくりした。また都市の中に森や林が延々と続くことも珍しくない。

◇ 質素で合理的で勤勉なドイツ人
今日の日本では、ドイツの家庭の食事よりはるかによいものを見ていい。

◇ ドイツ、フランスの国土は広い
つい、大陸の一部であることを忘れていた。開港した成田空港は羽田の四倍の広さを誇るが、ドゴール空港は成田の四倍の広さがあり、以前は三人の地主のものであつたという。

ドイツの有名な高速道路アウトバーンは速度制限がない。起伏やカーブもなく、ポルシェやベンツが走るにふさわしい道路である。片側四車線の中央寄りでは、二百キロ以上で走つてい

上げ下げ自在のシャワーの設計。アンテナをフロントガラスに組み込んだ車。小中学生が背負う手提げにもなる



まちをあげての歓迎

の日には、二月に行われるお祭りを私たちのために再現し、民族衣裳の人たちが、古い吹奏楽器によって行進したのである。公園には、多くの家族、近郷の合唱団、フランクフルト警察の男声合唱団、さては西ドイツの経済大臣（大蔵大臣）日本大使多くの日本商社マンとその家族まで招集され、大交歓の場となつた。その他どこへ行っても町ぐるみの温かいもてなしを受けた感激は忘れられない。

◇ 歴史に支えられたイタリア

数々の遺跡と、過去の栄光を物語る建物には驚くばかりである。特にいくつかの大聖堂で歌つた感激は大きかつた。しかし、国情が悪化しているこの国の大廣場には、昼も夜も無職の若者がたむろし、バスポートと貴重品は盗まれないように絶えず注意する必要がある。町は汚れがひどかつた。都市ごとに発行する紙幣が出回り、電話料金の盜難を防ぐため貨幣でなく専用のコインを使用する。産油国に近いにガソリン代は一リットル百三十五円もある。小柄で黒髪黒い目の、どこか日本人に似ているこの国の人々が気の毒に思われた。政治や教育や国民性が現在のイタリアをつくつたとすれば、対照的なドイツや日本の繁栄を考えるとしみじみ幸せに感じると同時に、自分の使命というものを再認識した次第であった。